

いろんな人と出会える家の外  
(年取るということ日誌から)

CL教育研究会 遠間美保子  
amhotm@gmail.com <http://docl.jp>



2018/04/02

高齢者医療センター行きのシャトルバスが発車して、数個目のバス停に停車した。乗車する人のために前のドアが開いているが、人が現れないのにバスは発車しない。するとやっと姿を見せたのは杖をついて、腰の曲がったおばあさんだった。靴の半歩づつ前に進んで、フリーパスを運転手さんに見せドカッと優先席に座りなにやらぶつぶつ言っている。付添人はおらず偉いなーと感心した。やおら、紙を取り出し、「えーと、9時が整形、9：20分眼医者、10：00歯医者か」と声を出して確認して「よし、こりゃたいへんだ」と診療受付用紙らしきものをバックにしまう。あの速度で過密なスケジュールをこなせるのかなと疑問が湧いたが、このお婆さんの活動力と注意力に頭が下がった。がんばっぺ！われらお年寄り。

7/23

朝7：30過ぎ、病院に行くためJR駅まで歩く。仕事先に向かう若い人たちが追い越していく。中年の男性が横を通り過ぎる。少し太っていて早足ではない。この暑さではペースを落とさないとすぐに汗をかいてしまうせいもある。前を歩く男性が住宅前の通り道でなにか小さなものをかかんで手で拾い、塀際の上にそっと置いた。指輪でも拾ったのかしらと拾い物を見るとき綺麗な琥珀色の蟬の抜け殻。思わず awesome で笑みが浮かんだ。暑さに気を取られず、子供の頃は昆虫好きだったのかなとか、外見より優しい観察眼のあるお父さんかしらとか、想像しているうちにその男性の足は遠のき、駅が近くなった。ありがとう。

9/06

古い家の雨樋の流れ落ちる口に枯れ葉や土が溜まって、そこにツユクサが10本近く、秋口の黄昏前の青空のような色で咲き誇っている。地面に生える雑草の一種だから足元で見かけることが多く、見上げた高さのところにもみつけると、ありふれたつゆ草がなにか特別な立派な花に見える。人や樹木や竹は上へ上へとより高い所を目指して伸びようとする。小さな雑草の中にも上を目指すものがあってもおかしくはないが…。

9/10

朝4時半過ぎに家を出る。雲もあって住宅街は薄暗い。路地の家々の門前を通ると、パッと灯りが灯り、通り過ぎると消える。そして次の家の前にかかるとパッと別のライトがつく。灯った瞬間はまるでスポットライトをあびたよう。この時間この狭い路地で他の人は見かけない。バレリーナのように両手を広げて踊ろうか。番犬に吠えられそうに止めた。

9/12

朝5：25分、40代前の男性が小走りですり寄り向かう。白い長袖シャツに黒っぽい細めのズボンを身に着け、右手に黒のビジネス用鞆。左手にはそのビジネスマンにはそぐわない、小さな青と赤の手提げ籠。

目にした途端、あっ愛妻弁当と気づき、張り切って仕事に向かう男性にエールを送った。

## ちょっとしたミステリー

9/19

大木や大きな見事な葵が花を咲かせている広い敷地に、人が住んでいる気配がない古い木造の二階建てアパートがひっそりと路地寄りにある。西側道路寄りになる二階の一つの窓にだけ、閉まったガラス戸の端に縦細のクーラーがついている。一、二階4軒に出入口が付いている。ウォーキングで20年間以上このアパートの路地を通るが、人の出入りを見たことがない。気づいて4、5年になるが、二階一番路地寄りの出入口の横に、これも動きそうもない古そうな洗濯機が置いてある。その前にロープが張られ、使っているとは見えない黒ずんだ緑色のバスタオルが一枚必ず干してある。というより、ここに人が住んでいて防犯のために下げているようだ。早朝、午前中、午後、夕方に通っても必ずタオルは下がっている。廊下は隣家とアパートに挟まれ風で飛ばされたことはなさそうだ。何しろ見るたびに必ずタオルは下がっている。

ところが今朝6時前だったが、アパートの二階裏を見上げるとある筈のタオルが下がっておらず、ロープだけはある。長年住んでいたたった一人の人がいなくなったのかもしれない。次回のウォーキングでそのことはわかる。

9/21と数日後にアパートの横を通った。タオルは下がってなく、洗濯機だけがポツンと置いたままになっている。洗濯機の回りに細ごまとしたものがあつたようだが、すっきりしている。一階、二階の窓には灰色のトタンの雨戸がすべて閉まっている。やはり、たぶん唯一住んでいた人はどこぞに引っ越したようだ。

10/03

今日アパートの横を通ると二階真ん中の雨戸だけが開いている。あれと思って、出入口のある廊下を見上げたら、男物の白い半そでシャツ2枚と他の洗濯ものがいろいろ干してあつた。新しい住人（干し物から若いサラリーマンと想像する）が入居したのだ。古いアパートの建物も同じ気持ちに違いない。なんだか、ほっとした。

10/07


宅地の工事現場にさしかかると、上下の濃い藍色でさっぱりと洗濯された作業衣を着て、ハットから短く刈られた白髪の子供の親方らしき人が、2tトラックから降りて、誰もいない工事現場を見回り始めた。

樹木がはびこっていた斜面の土砂が崩れたのか、コンクリートのブロックで地面から10mも高く城壁のように強固な斜面が築かれた。その前は宅地として土砂が盛られ整備されている。土建業の親方らしき人は、長年の経験で光る鋭い目線で、仕事の出来上りを一つ一つ確かめながら観察していた。

Constructionの現場は美しい。

10/12

向かいから自転車に乗った職人さんらしき人が口に長い鉛筆を加えて来た。近くで見たらハンチングを被って15cm近い長さのタバコを啜っていたのだ。あんなに長いタバコをこの年で生まれて初めて見た。普通の長さのタバコで2本分以上、火を一回点けたら充分喫煙が楽しめニコチンが吸入されることだろう。ハンチングはおしゃれでも、見て滑稽さが勝り、タバコを啜えたニヒリストではなく、長すぎるタバコを啜えた三枚目。現実の舞台は面白い。(千葉県市川市CLインストラクター)

 [目次へ戻る](#)